



探究学習におけるデータベースの活用

— 中学3年生「学びの技」での情報収集を支えるメディア —



伊藤 史織

<抄録>

玉川1学園中学3年生「学びの技」の探究学習をもとに、学校図書館におけるオンラインデータベースが果たす役割の重要性を検討した。

<キーワード>

学校図書館、探究学習、情報収集、オンラインデータベース、ラーニングスキル

1 はじめに

玉川学園の学校図書館、マルチメディアリソースセンター (Multimedia Resources Center: 以下MMRC) は、幼稚園から高等学校までの多様な学習活動に対応できる学習空間としてデザインされている。情報機器も充実しており、ノートPC (Macbook pro)66台、無線LANを完備している。

MMRCで扱うメディアは、図書、雑誌、新聞、Webサイト、オンラインデータベース等がある。図書53,000冊、雑誌約50誌、新聞5紙、ノートPC66台、オンラインデータベース9種類を提供している。

このような学習環境のもと、2008年度より、学校図書館を活用した中学3年生の必修授業「学びの技」を実施している。「学びの技」は、生涯にわたって役立つラーニングスキルの育成を目的としており、生徒全員が各自の論題(問い)を立て、調べてまとめて中間発表を行い、最終的には3000文字以上の論文を執筆する、本格的な探究学習である。

本稿では、探究学習「学びの技」におけるオンラインデータベースの活用状況と役割について検討したい。

2 学びの技の情報収集

(1) 「学びの技」の大まかな流れ

前期は、探究学習の全体像を把握するため、まず4時間で探究学習の流れを体験する学習を行う。その後、各自論題(問い)の検討と情報収集を平行して行う。後期は、集めた情報をまとめて中間発表(ポスターセッション)を行った後、3000文字の論文を執筆する。

図1は2015年度の「学びの技」のテキストの表紙に掲載している「探究学習のプロセス」である。この探究学習の最初のステップは、「周辺知識を得る」である。このステップは、Carol Kuhlthau博士の“Guided Inquiry Design Process”を参考に作成したものである(図2)。



図1 探究学習のステップ(2015)

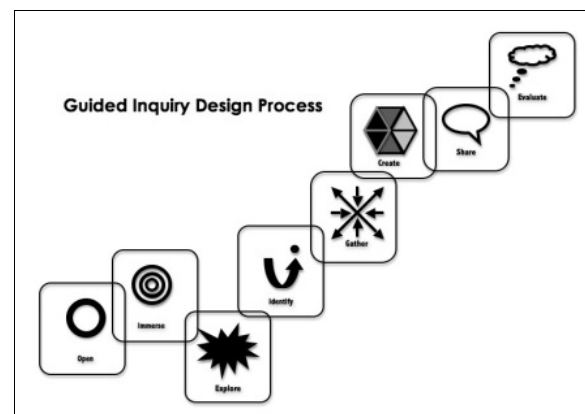


図2 Guided Inquiry Design Process

ITO, Shiori : 学校法人玉川学園 (東京都町田市玉川学園 6-1-1)

(2) 2段階の情報収集

「学びの技」では、論題（問い）を立てる前に、広く浅くその分野の情報を集めるよう指導している。研究分野の知識をある程度得ることによって、的確な論題（問い）を選択できるようになるからである。適切な目標を設定すれば、その後の課題研究はスムーズに行うことができる。

つまり「学びの技」では、目的の違う2段階の情報収集を行っていることになる。まずは「論題（問い）」を決定するための情報収集を行った上で、「論題（問い）」について調べるための情報収集を行うのである。

(3) 論題（問い）を決定するための情報収集

「論題（問い）」を決定するための情報収集の目的は、①その分野の概要を把握し、適切なテーマ設定を行う、②その分野の情報があるかどうかを見極める、の2点がある。論題は各自自由に設定できるが、「大きすぎないこと」「難しすぎないこと」「資料があること」などを条件にしている。

生徒は、「SNS」「スマホ」など比較的新しい事柄や時事をテーマに選択する傾向がある。そのようなテーマの場合、本などの資料は見つからない場合もある。調べても十分な情報が見つからない場合は、リサーチに苦勞してしまうテーマであるという判断材料になる。

(4) 論題（問い）について調べるための情報収集

論題（問い）が決定できたら、「論題（問い）」について調べるための情報収集である。

「学びの技」では、各種メディアの特性の理解を目的として、なるべく多様なメディアを使用して情報収集するように指導を工夫している。本、新聞や雑誌、インターネット、オンラインデータベース等の多様なメディア（3種類以上）から、計10件以上の情報を集めるよう指導している。

しかし、生徒たちが実際に情報源として最も多く使用するのはWebサイトである。安易に信憑性の低い情報に惑わされないよう、「学びの技」では参考文献にはいけない「禁止サイト」を設けている。誰でも改変可能なサイトや、開設者不明のサイトを参考文献として使用すること等を禁じている。Webサイトは利用指導に注意が必要なメディアである。

その点、オンラインデータベースは、検索の利便性と情報の信頼性、速報性を兼ね備えており、積極的に活用させているメディアである。

(5) オンラインデータベースの活用

前述の通り、MMRCではデータベース9種類が利用可

能で、うち3件が新聞記事データベース（朝日新聞記事データベース「朝日けんさくくん」ほか）である。「学びの技」で指導を行うため、中学3年生のオンラインデータベースに対する理解度は、7割を超える*1。

新聞記事データベースは、新しい出来事や幅広い分野に関する情報があり、原因や背景、動向を今後の予測も含めてまとめられているため、適切な論題（問い）を決める際の情報収集でも、論題（問い）について調べる際の情報収集にも重宝している。

複数の新聞記事データベースを使用することで、それぞれの新聞の考え方やニュースの重要度の重みづけの違い、状況の変化等を調べることができる。中でも、生徒が好む比較的新しい分野のテーマには、新聞記事データベースの速報性が非常に役立っており、テーマ選択の幅が広がっている。

3 学校図書館におけるデータベース

MMRCで利用可能なデータベースのうち「学びの技」で利用が多いオンラインデータベースを調査した。

2014年度「学びの技」の最優秀賞・金賞論文(6本)の参考文献リストに記載された参考文献(全153件)のうち、オンラインデータベースが占める割合は10.5%(16件)、うち12件が新聞記事データベースであった。

銀賞受賞論文(10本)まで対象を広げると、参考文献数の合計は326件、うちデータベースが31件あった。そのうち20件が新聞記事データベース、残り11件は百科事典系データベースが利用されていた。

データベースは、今やMMRCには欠かせないメディアとなっている。しかし「学びの技」が始まる前のデータベース導入初期は、その活用をさせるための利用指導の場が確保できず、十分には活かしきれていなかった。データベースは、使える環境にするだけでは利用されない。授業等で各種メディアの利用指導の場面があるからこそ、活かせるメディアである。今後も、利用価値の高いデータベースを吟味するとともに、メディアの利用指導を充実させていきたい。

*1. 2014年度玉川学園中学3年生の学習スキル習熟度を測るアンケートでは、「学びの技」受講前にはオンラインデータベースが「大体わかる」または「説明できる」と答えたのは全体の35%だったが、受講後では71%に上った。この調査は鶴見大学河西由美子准教授(2006~08年度 玉川学園MMRC学習支援室長)によって2008年度に開始され、現在も同調査を授業担当者が継続している。